

I 自己評価

1 学校教育目標	<地域に根ざした坂下高校> ～地域と共に、地域と育つ～ 社会の進展や変化に主体的に対応し、生涯にわたって心豊かで創造的な人生を営む態度や能力を身に付け、医療、福祉、生活文化をはじめとする幅広い分野で、地域社会に貢献できる生徒を育成する。		
2 スクールポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP) ・社会の課題に主体的に対応し、他者と協力しながら課題解決に取り組む生徒 ・夢と希望を持ち、前向きに人生に向き合い、他者への思いやりを忘れない生徒 ・地域社会の様々な分野で自己の役割を自覚し、社会に貢献する生徒	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP) ・生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を通じた基礎学力の定着とコミュニケーション能力の育成 ・教科の学習目標に向け、ICTはじめ学習方法の工夫と研究を通じた主体的・対話的な学びの育成 ・地域と連携した多様な学習活動を通して、ローカルな学びをグローバルな学びへと展開できる課題解決力・深い学びの育成	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP) ・自らの意思で学ぼうとし、目的意識を持って学校生活に取り組む生徒 ・新しいことにチャレンジし、粘り強く最後まで真面目に取り組む生徒 ・地域を愛し、将来の地域社会のために役に立ちたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇教務	
4 現状の分析	○学習指導についての保護者評価は、昨年度比較で高くなっている。特にICTに関する項目の数値が伸びた。 ▲学習指導についての生徒評価は、「個々の能力に応じた学習指導をしている」という項目で、昨年度よりやや数値が下がった。一方、ICTに関する項目と「総合的な探究の時間」の評価は高くなった。	
5 学校の抱える課題	◇生徒の学力層の幅が広い現状を踏まえた「習熟度授業」や「少人数授業」を展開しているが、各生徒のニーズに合った授業が実施されているか。 ◇福祉科の募集について、今まで何度も工夫を試み広報をしてきたが、結果につながる兆候がなかなか見られない。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・教育課程の検討と教科「地域連携」の充実 ・情報機器の有効活用による授業改善と基礎学力の育成 ・地域を巻き込んだ効果的な広報活動による学校アピール	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 教育課程と地域連携の充実 ・教育課程委員会 ・地域連携会議 (2) 授業改善、基礎学力の育成 ・公開授業 ・朝活動 ・ベシックサポート ・事後補充 (3) 広報活動 ・坂高だよりの発行 ・HP、instagramの充実 ・中学校への広報 ・体験入学、各説明会等	(1) 基礎力診断テストの結果 (2) 学校評価アンケート（年1回）の授業に関する項目の数値 (3) 授業アンケート（年1回）の結果 (4) 学校運営協議会における委員からの意見及び助言 (5) 中学生による高校希望調査	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・7の(1)は、コース学習の充実につながる教育課程の再編と地域連携活動の検証を行うことができた。 ・7の(2)は、朝活動をはじめ授業に取り組む姿勢は概ね良好であったが、「授業中の私語が気になる」という項目が全体的に高かったため、授業規律の徹底を図った。基礎学力は1年生、2年生徒も成績の伸びがみられた。事後補充は1月に実施し、1、2年生で国語の学力に課題を抱える生徒に絞った補充を実施した。 ・7の(3)は、HP、Instagramなどを使った情報発信や中学校職員向け説明会、体験入学、秋のオープンスクール、「咲明日高校マルシェ」等を実施した。	①学校評価アンケート（保護者、生徒）の学習に関する項目の結果 ②基礎学力診断テストの結果 ③授業アンケートの結果 ④迷惑調査の結果 ⑤中学生高校希望調査の結果	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D 【7の(1)項目】  A <input checked="" type="checkbox"/> B C D 【7の(2)項目】  A <input checked="" type="checkbox"/> B C D 【7の(3)項目】

12 成 果 ・ 課 題	<p>○生徒評価、保護者評価とも、学習評価への評価が高く、ICTに関する項目と、「総合的な探究の時間」の内容評価が高かった。次年度は、探究する方法を身に付け、地域連携を経験した生徒が、自ら課題を見つけ、深い探究活動を展開することで自分たちの学習成果を地域に発信することに期待がもてる。広報については「咲明日高校マルシェ」や体験入学をはじめとする企画と、地域と連携した特徴的な学習内容を、中学生と地域に広報していきたい。</p> <p>▲二極化する幅広い学力層への学習支援と、福祉科の志望人数についての課題がある。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A <input checked="" type="checkbox"/> B C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉科の生徒募集につながる地域を巻き込んだ包括的な協力体制の構築が必要である。そのために学校運営協議会をはじめ各方面の方の助言をいただきながら、検討をしていきたい。</li> <li>少人数の強みを生かし、生徒の学力の実態に合った授業内容、テスト、課題などの見直しを、各教科に再度検討してもらおう。また成績下位層（基礎学力診断テストD3）の生徒は、1月に国語に重点を置いた補充を実施し、5月実施の基礎学力テストで、国語のD3からの脱却を目指す。</li> <li>地域探究科の学科目標が達成できる地域連携の実践と、3年間の学習を見据えた教育課程の再検討を実施する。特に教科「地域連携」の各科目については、具体的な地域連携の進捗状況や課題などを、地域連携会議で確認しながら、分掌や教科と連携して、「総合的な探究の時間」を柱とする教科横断的な学習の実践を目指す。</li> </ul>	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

<p><b>【意見・要望・評価等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力の二極化については、どの学校でも大きな課題の一つにあげられているが、現状を分析して少しでも改善できるように取り組んでほしい。</li> <li>恵那地区については多くの学校が定員を満たすのが厳しいが、魅力を前面に出して少しでも多くの生徒に入学してもらえるようにしてほしい。</li> </ul>
--

I 自己評価

1 学校教育目標	<地域に根ざした坂下高校> ～地域と共に、地域と育つ～ 社会の進展や変化に主体的に対応し、生涯にわたって心豊かで創造的な人生を営む態度や能力を身に付け、医療、福祉、生活文化をはじめとする幅広い分野で、地域社会に貢献できる生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・社会の課題に主体的に対応し、他者と協力しながら課題解決に取り組む生徒 ・夢と希望を持ち、前向きに人生に向き合い、他者への思いやりを忘れない生徒 ・地域社会の様々な分野で、自己の役割を自覚し、社会に貢献する生徒	・生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を通じた基礎学力の定着とコミュニケーション能力の育成 ・教科の学習目標に向け、ICTはじめ学習方法の工夫と研究を通じた主体的・対話的な学びの育成 ・地域と連携した多様な学習活動を通して、ローカルな学びをグローバルな学びへと展開できる課題解決力 ・深い学びの育成	・自らの意思で学ぼうとし、目的意識を持って学校生活に取り組む生徒 ・新しいことにチャレンジし、粘り強く最後まで真面目に取り組む生徒 ・地域を愛し、将来の地域社会のために役に立ちたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇生徒指導		
4 現状の分析	○「よるこんで学校に行っている」と答えた保護者が9割を超えた。 ▲社会生活における基本的なモラルやマナーの意識が若干低下している。		
5 学校の抱える課題	◇SNSによるトラブルが多く見られた。情報モラル対策からスマートフォンの使い方について、講話、啓発、指導が必要である。 ◇校外活動や公共交通機関の使い方などマナーに欠ける場面が見られた。		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・高校生としての自覚と自分の行動にけじめと責任を持たせることで、基本的生活習慣の確立と規範意識の高揚を促し自己指導能力を育てる。 ・全職員による教育相談体制を確立し、不適切行動の未然防止・早期発見早期対応に努めるとともに、家庭・地域・SC等、関係機関との十分な連携のもと、問題解決に努める。		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 身だしなみ指導 あいさつ運動 (2) 教育相談の職員研修 教育相談体制の確立 担任と保護者との連携	(1) 身だしなみ指導による確認 (2) 保護者アンケートより相談が出来ているが90%以上の回答がある。		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
・月1回の身だしなみ指導を実施し、各種の講話を開催することにより自己指導能力の育成を図る ・教育相談を重視し、教育相談週間の設定や教育相談体制の確立。情報共有の実施。 ・保護者との連携を密にして、気になることがあれば速やかに学校から連絡をとる。	① 学校評価アンケート結果	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D	
	② 事案確認と的確な対応	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D	
	③ 保護者との情報共有	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D	
12 成果	○身だしなみについては大きな乱れもなく生徒たちは心得て実行できている。気になる問題に対して全校集会を行い呼びかけをすることにより、改善の方向に導けた。多くの生徒は自己指導能力が身に付いている。 ・○生徒指導の事案が発生しても、あらゆる担当の職員が行動して早期対応や手厚い指導で問題解決に至っている。また保護者への対応も迅速に行えた。 ▲自己確立できていない生徒もいる。教育相談を充実させ共有し指導して行きたい		総合評価
13 来年度に向けての改善方策案	アンケートによる「よるこんで学校へ行っている」との回答を維持してもらえよう安心な学校づくりへの取り組みを実行する。心の健康のサポートとしては教育相談の充実スクールカウンセラー、相談員、支援員との連携と教員全員で実施していく。不登校傾向の生徒には個々によって理由が違い難しい点はあるが、それぞれの要因に支援できる体制をとっていきたい。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

### 【意見・要望・評価等】

- ・保護者等に学校からの案内等がしっかり届いていないこともある。基本的な習慣をしっかりと身につけさせたい。
- ・本校の生徒は制服に乱れが無く、生徒指導がしっかりされている。社会に出ても対応できるような教育をお願いしたい。

I 自己評価

1 学校教育目標	<地域に根ざした坂下高校> ～地域と共に、地域と育つ～ 社会の進展や変化に主体的に対応し、生涯にわたって心豊かで創造的な人生を営む態度や能力を身に付け、医療、福祉、生活文化をはじめとする幅広い分野で、地域社会に貢献できる生徒を育成する。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）
	・社会の課題に主体的に対応し、他者と協力しながら課題解決に取り組む生徒 ・夢と希望を持ち、前向きに人生に向き合い、他者への思いやりを忘れない生徒 ・地域社会の様々な分野で、自己の役割を自覚し、社会に貢献する生徒	・生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を通じた基礎学力の定着とコミュニケーション能力の育成 ・教科の学習目標に向け、ICTはじめ学習方法の工夫と研究を通じた主体的・対話的な学びの育成 ・地域と連携した多様な学習活動を通して、ローカルな学びをグローバルな学びへと展開できる課題解決力 ・深い学びの育成	・自らの意思で学ぼうとし、目的意識を持って学校生活に取り組む生徒 ・新しいことにチャレンジし、粘り強く最後まで真面目に取り組む生徒 ・地域を愛し、将来の地域社会のために役に立ちたいと考えている生徒

3 評価する領域・分野	◇進路指導	
4 現状の分析	○生徒の希望に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出す指導が行われており、保護者からの理解も得られている。 ▲進路に関する提供等について、生徒からの評価は良いが、保護者からの評価が低い。保護者に進路情報を提供する機会を設ける必要がある。	
5 学校の抱える課題	◇特に1、2年生において進路目標をもてていない生徒が多い。早期から進路意識を高め、進路目標をもたせたい。また、保護者にタイムリーに進路情報を提供し、保護者の理解を得ながら進めていくことも大切である。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・基礎学力の向上と進路実現を支援する。 ・主体的に考え、行動できる姿勢を育てる。 ・地域で活躍する専門職（看護、介護、保育等）を排出する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 基礎学力向上と進路実現 ①進学補習、外部模試 ②進路適性の理解と把握 (2) 進路学習の充実と進路意識の向上 ①地域での進路学習 ②面接指導 ③地元事業所との連携 (3) 広報活動と保護者との連携 ①卒業生の紹介 ②進路情報の提供	(1) 地元就職率の向上（80%以上） (2) 進路行事におけるアンケート結果 (3) 学校評価アンケート結果	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・進学補習と外部模試について、学校や生徒の現状に合わせた方法へと見直しを行った。 ・今年度からスタートしたデュアルシステムを通して地元企業との連携を深めるとともに、生徒の職業観・勤労観を育てることができた。 ・早期から高い進路目標を持ち取り組むことができるよう、進路情報の提供、職員間での共有を行った。	①地元の事業所への高い就職率が達成できているか。 ②進路行事は生徒にとって充実したものになっているか。 ③本校の進路指導が保護者に理解されているか。	A B C D A B C D A B C D
12 成果課題	○就職・進学ともに生徒が希望する進路を実現することができた。就職者のほとんどが地元の事業所より内定を頂いた。 ○地元事業所の協力を得てデュアルシステム、インターンシップ、企業見学等を実施し、自己理解を深め進路意識を高めることができた。 ▲1、2年生の生徒の進路意識が高められていない。特に、学力の高い生徒への進路に対する意識づけを早期から行う必要がある	
	総合評価 A B C D	

13 来年度に向けての改善方策案

- ・ 1、2年時から生徒に応じた進路情報を提供して進路意識の向上を図り、進路目標を持たせる。
- ・ 生徒の進路希望を定期的に職員全体で共有し、基礎学力向上や試験対策（小論文・志望理由書等）の支援体制を整える。
- ・ PTA総会等の場や通信等を利用して、保護者に対して積極的に進路情報を提供する。

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月26日

### 【意見・要望・評価等】

- ・ 地元就職率が100%であり、この地域に大きく貢献している。
- ・ デュアルシステムは、生徒、学校、地域によって非常に効果のある素晴らしい取組である。来年度以降も継続して取り組んでいただきたい。また、企業の受け入れ先を広げていけるとよい。
- ・ デュアルシステムを経験した生徒が来年どのような進路選択をしていくのか興味深い。